

令和 3 年度

第16回「SYDボランティア奨励賞」受賞者名簿



後援:文部科学省

「広がれボランティアの輪」連絡会議

公益財団法人日本レクリエーション協会

公益社団法人日本キャンプ協会

受賞者一覧

(敬称略・順不同)

文部科学大臣賞

唐津南高校 虹の松原プロジェクトチーム (佐賀県)

優秀賞

【小・中学生の部】 姫城中学校 姫ボラ (宮崎県)

【高校生の部】 群馬県立大泉高等学校
植物バイオ研究部 (群馬県)

【大学・一般の部】 東京家政大学ヒューマンライフ支援センター
地域小学校との食育連携プロジェクト (東京都)

特別賞

■ 山鹿市立鹿北中学校 生徒会 (熊本県)

■ 熊野高等学校 Kumano サポーターズリーダー部
(和歌山県)

☆第16回SYDボランティア奨励賞には、28都道府県とアメリカより[小・中学生の部]21件、
[高校生の部]
20件、[大学・一般の部]11件の計52件の応募があり、選考委員会において厳正なる選考の
結果、上記受賞者が決定されました。

SYDは、1906年、東京府師範学校(現在の東京学芸大学)に学ぶ蓮沼門三を中心とする青年たちによって創立された社会教育団体です。“愛と汗の実践”を理念として「心の教育」一筋に歩み続けて116年、青少年の健全育成を中心とした様々な活動を行っており、今、みんなの幸せを願う「幸せの種まき運動」を全国的に展開

文 部 科 学 大 臣 賞

唐津南高校 虹の松原プロジェクトチーム

(佐賀県)

虹の松原は400年前に玄界灘の潮風から唐津の農地を守る防風防潮林として、唐津の人々により植栽された。市民は松原と共存し守り繋いできたが、松原の存在意識と人々の意識が薄れ、保全活動が行われず環境が悪化していた。この状況を変え、美しい虹の松原を後世に繋ぐため、当チームが立ち上がった。活動は部活動ではなく、唐津の宝「虹の松原」が大好きな生徒が自主的に集まり、それぞれの特技や発想を活かし松原を守るため活動している。創設18年目の歴史を持ち、卒業生も清掃活動等に企業・学生の目線から協力してくれている。

主な活動として小規模の清掃活動から1,500名を超える「KPP」と呼ばれる大規模清掃活動等を年間を通して市やNPO法人と連携し運営してきた。近年は今まで未活用であった枯葉等の副産物を有効活用する為、企業や大学と連携し商品開発を行っている。開発した商品で得た利益は虹の松原へ還元する循環型サイクルを構築。その中でも松葉の食品加工に初めて成功した「食べて守ろう虹の松葉プラン」等、新しい可能性を広げPRに成功した。

また、これからの松原を担う次の世代に向けたアプローチを行うため、「虹の松原つなぐプラン」と名付けたワークショップを展開。コロナ流行を逆手に取った「松ぼっくりアマビエ」では、ワークショップやトレード企画など、コロナにより経験を奪われた子ども達に松原を通じた経験を届けることができ、その愛着形成に繋げている。

チーム内には①松ぼっくりの可愛い見た目と微細な穴が開いた形状を活かした「松ポップリン」というインテリアを開発する班②年間1,500tの枯葉を固形ペレットに加工し、環境省と連動した新エネルギー展開や、マルチの代替品としてのマテリアル利用を研究する班③間伐材から若い茶葉を採取し、健康効果を研究所や企業と連携し「松葉パウダー」を開発した班④食品流通科の生徒が途絶えていた唐津の銘菓に松葉パウダーを添加し復活させたり、「松葉サイダー」「松葉うどん」など加工品を開発し販売や食育などに繋げる活動班⑤コロナ禍で苦しむ子ども達を元気づけるため「松ぼっくりアマビエ」を活かした交流活動を行い、松原内の小学校や高齢者施設で授業を行う班⑥松葉の蒸留水から化粧品を開発する班、など多くの班を作り自分の特技を活かし活動を行っている。

この活動により悪化していた松原の環境が少しずつ回復している。現在登録団体は236団体、登録人数は7,678人と増加し、参加者の多くが次の世代を担う子ども達で、チームの活動が愛着形成に繋がり、地域を誇りに思えるような心を育むことができていると実感している。これからも虹の松原の良さを世界に発信できるようにこのプロジェクトを地域と一緒に行っていきます。



「松ぼっくりアマビエ」を保育園に提供



収益はすべて虹の松原に還元



地域の子供達と一緒に虹の松原清掃



虹の松原啓発ワークショップの様子



日本木材学会での事例発表



年越し「松葉うどん」ワークショップ

優 秀 賞

【小・中学生の部】 姫城中学校 姫ボラ

(宮崎県)

姫ボラは平成20年に発足して2021年で13年目を迎えた。生徒会の活性化や奉仕の心を育てること、地域との交流や障がい者との交流・理解を深めることを目的として始まった。普段はボランティアスタッフ17名を中心に活動し、大人数の活動の場合は有志を募り実践している。テーマは【ふくし】(ふ=ふだんの、く=くらしを、し=しあわせに)、現在ではSDGsを意識し、また非接触での活動に転換した。

①フードバンクでは回収した食品を都城社会福祉協議会に届けて、各家庭に届けてもらった。②給食センターで出た廃油をもらい受け、エコ石鹸を作り校内での手洗いに活用し、近隣の方々や来校者へも配布した。③ペットボトルのキャップを集めて70名分のワクチンを寄附した。④20年ほど前から交流のある障がい者支援「サークル虹」と七夕・お月見交流会を実践、ピラ配りや募金活動も毎年行っている。⑤タオルの寄附を呼び掛け、よだれ掛けや雑巾等を養護施設等の施設へ届け、手作りフェイスシールドも一緒に届けた。⑥特別支援学級の生徒は自立の時間に製作した刺し子のコースターやペン立てを近隣の会社等に届けた。⑦校内の便器を一人一器ずつ無洗剤で丁寧に磨きあげた。この活動は4年連続で実施し、生徒に人気の高い活動となっている。⑧姫城地区町づくり協議会から花の苗を提供してもらい、緑化ボランティアでコメリの従業員さんと協働して花壇に植えた。⑨10年前から夏祭りでは神社の清掃や夜店の手伝い、吹奏楽部の演奏など地域貢献している。⑩3年前から給食用のお盆洗いをやめ、その結果年間の水道代が約40%節約できた。

ボランティア活動は13年目を迎え、姫ボラは地域に定着してきた。コロナ禍までは地域の方からボランティアの依頼が多数あり、長年の地道な活動が地域の方々に認められて高い評価を得ている。姫城地区も少子・高齢化が益々進み、若い力が必要とされている。地区の町づくり協議会への参加活動型のボランティア、幼児施設への雑巾やよだれ掛けの贈呈、地区の講師による月2回の茶道教室、花植えなど地域の方々の協力を得ながら交流を深め、またエコバッグ普及活動、エコ風呂敷活用、使い捨てカイロで水質改善の呼びかけ・啓発等を行い、多様な方々との共生社会構築に尽力している。

我々のテーマである【ふくし】に添い、SDGsを意識して、自分たちの身近な所でできるボランティア活動をこれからも継続し、他の中学校にボランティアを呼び掛ける行動や姫城中学校の活動をまとめた壁新聞などを市役所等に掲示してもらえうように広報活動にも取り組んでいきたい。また継続的な活動ができるように後輩の育成も心がけて活動が続けていきたいと考えている。



フードバンク贈呈



廃油からエコ石鹸作り



障がい者支援「サークル虹」へ七夕飾り



交通指導員さんへフェイスシールド贈呈



幼稚園によだれ掛け・雑巾贈呈



校内便器磨き

【高校生の部】 群馬県立大泉高等学校 植物バイオ研究部

(群馬県)

当部は日ごろ学んでいるバイオテクノロジーを活用し、地域に密着し貢献する活動・研究に取り組んでいる。1993年に創立され、授業で学んだ知識・技術をさらに高めるため、植物の増殖技術について日々研究している。これまで取り組んできた環境保全の活動に2018年、館林市教育委員会から「茂林寺沼湿原の保全活動に協力してほしい」と依頼を受け本活動がスタートした。

「茂林寺沼湿原」は貴重な植物が生息する低地湿原で、2019年には日本遺産にも指定された。茂林寺沼湿原の特徴である真っ青な美しい花を咲かせる「カキツバタ」は国の準絶滅危惧種に指定されている。年々減少するカキツバタを始めとする湿原の貴重な植物を保全するため、ボランティア活動に取り組んでいる。

具体的には①準絶滅危惧種「カキツバタ」の増殖研究（バイオテクノロジーを活用し増殖研究に取り組んでいる、また、カキツバタとその周辺の植生を把握するため、湿原での定期的なモニタリングを実施）②特定外来種の侵入防止と除去活動（湿原内への特定外来植物の侵入を未然に防止、関東圏内の繁殖状況について情報を収集し、それを元に湿原及び周辺水路で調査を実施。また湿原内で在来種の生育を阻害する外来植物を除去する活動を継続的に行う）③周知活動（地域のイベントや新聞・広報誌、YouTube等で情報を発信し、茂林寺沼湿原の現状や保全の重要性について伝える活動）

活動の特徴は、バイオテクノロジー技術を活用して植物の育成ができることです。カキツバタは自然条件下では発芽率が低く増殖効率が悪いため、旺盛に生育する外来植物に自生地を奪われている。そこで、試験管内で種子を発芽させることができる「無菌播種」について研究し、カキツバタを育成している。この技術は一つの種子から一つの植物を育成できるため、遺伝的多様性を残したまま増殖が可能で、カキツバタのような貴重な種を保存するための重要な技術だと考えている。

また、活動には館林市教育委員会や自然環境研究センターを主な連携先とし、関東農政局、JA邑楽館林、地域農家の方々にも協力を仰ぎ、また定期的に開催する植生のモニタリングや湿原の外来植物の除去作業は、地域ボランティアの方々と協力して継続的に実施している。

茂林寺沼湿原の活動が始まって4年目を迎え、現在6人の部員で活動をしている。カキツバタが咲き乱れる湿原の美しい原風景の再生を目標に、地域の方々と密に連携し、活動を支援してくれることへの感謝の気持ちを忘れずに、これからも茂林寺沼湿原の多様性や歴史を未来に残していくため、ボランティア活動を続けていきます。



カキツバタの増殖培養



外来植物の除去作業



地域のイベントでのバイオテクノロジー講座



特定外来植物の侵入に関する調査



特定外来植物の流入調査



連携しているボランティアの皆さん

【大学・一般の部】

東京家政大学ヒューマンライフ支援センター 地域小学校との食育連携プロジェクト（東京都）

地域の小学校から、東京家政大学の学生と小学生がふれあい、交流できる機会を持ちたいとの要望がきっかけで、将来小学校の先生や学校給食の栄養士になりたいと思っている大学生等が、自らの学びを活かし、実践で学べる機会として小学校に出向くようになり、小学生と大学生が互いに学び合える連携事業となった。

活動としては①地域小学校への食育出張授業②子どもたちとの共食による交流（給食への参加）③子どもたちの農業体験をアートで表現～オリジナルバンダナづくり～④コロナ禍での給食時間を共感できる食環境とするための「食育動画の制作」。2020年以降は、感染症予防の観点から上記①～③の活動が出来なくなったことから、大学生がオリジナルの食育動画を制作して提供している。子どもたちは、給食を食べながら動画を視聴し、感想や意見を伝え合うことで互いの学びとしている。

食育動画制作は、小学校の先生から「いつもクラスメイトと対面で楽しく給食を食べていた子どもたちがコロナ禍の中、一方に黑板报を見ながら“黙食”している様子が見ていて切ない。給食の時間を楽しいひと時とする工夫ができないか」との相談があったことがきっかけだった。大学生から「映像があれば、感染対策をしながら給食の時間をみんなで共感できるのではないか」との案が挙がった。コロナ禍により大学では授業が全面オンラインとなり、サークル活動や課外活動（ボランティア）も禁止され、キャンパスに入ることでもできず自宅待機を余儀なくされた。人とのふれあいや交流から学ぶ機会を奪われてしまった大学生が、厳しい自粛制限でもできることを模索する中で、食育動画を制作するという目的にたどりついた。自らの学びを子どもたちの学びとして役立たせたい！との思いが伝わる内容のオリジナル動画が続き完成している。

大学生が食に関するテーマや内容を企画し、コメントを考え音声や画像の加工・編集を行い、10分程度の動画を作成。小学生が食に興味をもち、家庭での実践に繋がる内容を心がけている。完成した動画を小学校の給食の時間に視聴してもらう。子どもたちからの動画の感想や意見が大学生にフィードバックされ、次なる動画のブラッシュアップに役立たせている。コロナ禍のなか、大学生と小学生が動画を通じての間接的な交流だが、相互にとって実践を伴う嬉しい学びとなっている。

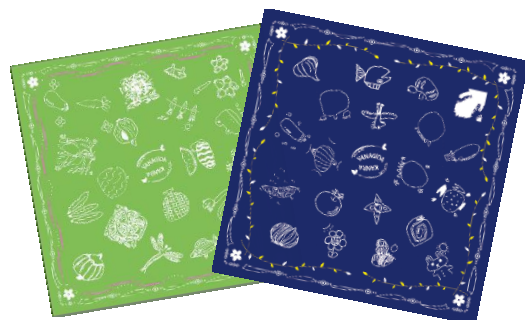
食育とは、実際に体験させることが大切だと考えていたため、コロナ禍で出張授業やイベントができない状況では食育活動の継続は難しいと意気消沈していたが、食育動画の中で問いかけやクイズ、料理の仕方など、見せ方を工夫することで、子どもたちから「家でやってみたい」「料理したい」「食べてみたい」等の感想が得られたことから、動画視聴が家庭での主体的な食育実践の動機づけになることがわかった。現在、この主体性を継続させるためにはどのような動画による働きかけがより有効なのかを模索、検討している。また今後は食育以外の分野でも大学の専門的な学びを活かし、子どもたちの生活や学びに役立つ動画を制作したいと動きだしている。



栄養学を学ぶ学生が実際の農産物を使い小学校で食育出張授業



美術造形を学ぶ学生が指導し農作物のイラストを描いている



バンダナ制作出張授業で完成したバンダナ



学生が作った食育動画を黙食で視聴している様子（低学年）



コロナ禍のなか黙食で食育動画を視聴している様子（高学年）



小学生から感想文が届きました

特 別 賞

山鹿市立鹿北中学校 生徒会

(熊本県)

鹿北中は、防災教育に熱心に取り組む学校で、生徒会も防災教育を通して「地域から守られる存在から、地域を守る存在へ」との目標を掲げ、様々な活動を創ってきた。そして鹿北町最大のまつり「かほくまつり」を自分たちも盛り上げていきたいとの強い思いから、かほくまつり実行委員会にお願いして、企画段階から参加させてもらうようになった。鹿北中生は常に、いつもお世話になっている地域の方々に「笑顔に、元気にしたい」との思いから、想像力あふれるアイデアを考え出し実行に移してきた。特にコロナの影響でかほくまつりが中止となった昨年度と今年度は、自分たちでまつりの代替となる企画を考え、地域の方々に巻き込んだダイナミックな取組を成功させた。

具体的には、平成29年度は「手をつなごうプロジェクト」とし、会場に来られた方々500人得手をつなぐイベントを企画、世代を超えた一体感を演出した。平成30年度は、まつりで担がれていた神輿を中学生の手で復活させる「神輿プロジェクト」を企画。令和元年度は、併設する鹿北小学校を巻き込んで「子ども神輿」と、中学生が地元の北勢会の方と担ぐ「本神輿」の共演を演出した「神輿復活プロジェクト2」。令和2年度は、まつりが中止となったため、廃校になった小学校を会場に、地域の方限定とした「鹿北ふれあいデー」を企画し、合唱、演劇、ゲームコーナー、読み聞かせ、カフェ経営などを行った。そして今年度、2年連続でまつりが中止となったことから保育園、小学校、鹿北文化協会に呼びかけ、歌や楽器演奏、民謡や茶山唄、フラダンスなど楽しい交流の場となる「あつまれ芸術の森 in 鹿北」を企画し大成功を収めた。

まつりの実行委員会では鹿北中生徒会のために「かほくまつりサポーター会議」を創設し、中学生は地域の方々と対等に意見交換をしている。しかしコロナの影響で昨年度まつりが中止となる中、中学生が「かほくまつりサポーター会議」を「かほく未来会議」に変更してほしいと要望した。それは、まつりだけでなく、もっと様々な角度から鹿北のこれからを地域の方々と創っていききたいとの熱い思いからであった。

鹿北町は山間の町で、地域には岩野川が流れているが、ここ数年は氾濫の危険性が高まっている。そこで生徒会では、防災教育での学びを生かして、防災ボランティア活動を行おうと話し合いを始めている。「まず地域を知ることが大切」と、一人暮らしの高齢者の方がどこに住んでいるのかなどを調べる活動に取り組んでいる。また地区生徒会では、夏休みに地区ごとに行われているグランドゴルフに参加して交流を深めている。かほく未来会議では、かほくまつりやイベントの企画だけでなく、安心安全のために中学生に何ができるのかなどについても話し合いを始めている。



「手をつなごうプロジェクト」来場者500人が手をつなぎました



「茶っぷりん制作」鹿北のお茶と栗を使ったスイーツを考案



「神輿復活プロジェクト」10年ぶりにまつりに神輿を復活



「鹿北ふれあいデー」カフェ経営、読み聞かせなど地域の方々と交流



「あつまれ芸術の森 in 鹿北」保育園児、小学生、中学生、地域の方々と共に合唱、茶山唄等の様々なプログラムを通して楽しい時間を演出



熊野高等学校 Kumano サポーターズリーダー部 (和歌山県)

当部は平成16年に設立され、活動を行ってきたが、平成23年台風12号による紀伊半島大水害で死者56名・行方不明者5名という甚大な被害に遭い、当時高校3年生だった仲間が一人亡くなった。仲間の死を無駄にしないために、この災害の教訓を生かそうと「地域に根ざし・貢献する高校生リーダーを目指して」をモットーに活動の輪を広げることになった。

南海トラフ巨大地震が30年以内に発生する確率は70～80%、和歌山県の死者は8万人と予想されている。そこで地域の高齢者・学童・障がい者など災害時要援護者となりうるすべての人々と普段から積極的に触れ合い、絆作りを行う5つのボランティア活動を始め、地域や世代で異なる課題の解決に向け、サービスマーケティングを取り入れた継続的な取組に発展した。令和元年、『すべての命を救うプロジェクト』を立ち上げ、一人でも多くの命を救おうと、高齢者の安否確認の際、寝ている部屋の家具固定を調査し、町内のAED設置施設の写真撮影・マップ作りとダンスで心肺蘇生術の啓蒙活動を行った。

昨年、高校生が校内で心肺停止した時のAED使用率は、男子が83.2%であるのに対し、女子は55.6%で女子にはAEDが使われにくいことを知り、AED使用時におけるプライバシー保護を目的としたシート『AEDハートフルシート』を開発し、上富田町内69カ所に配布し、現在は近隣の市町村へ配布活動を広げている。埼玉県消防署から「マラソン大会で女性が心停止しAEDがあったのに処置が遅れ、車椅子生活を余儀なくされている、新聞でサポーターズの活動を知り、市内のAED設置施設80カ所にこのシートを置きたい」、浜松の医療センターから「心肺蘇生術の講習会を24年行っており、女子のAED使用率が未だ3割にも満たないことを危惧していた。このシートを全国に広げて欲しい」等々、他にも新聞やSNSを通じて全国から問い合わせが来ている。

部では、ダンス班、製作班、衣装係、音響係、ボランティア係、動画班、国際交流班とそれぞれにパートリーダーが分れており、3年生全員で役割分担をして活動を進めている。コロナ禍のなかで工夫をし、コロナ禍で何もかもが制限されると思うのではなく、コロナ禍だからこそ実現できたこともあり大きな学びになった。

女性のAED使用率が5割に満たないことの解決策として、AEDシートを商品化し、全国普及を目指したい。またAED設置は各自治体で義務化されていないが、設置施設をオープンデータ化し、使用率の向上に努めていきたい。コロナで対外的なボランティア活動はまだできていないが、動画による啓蒙活動（警察とのコラボ動画）等で地域貢献をさらに継続していきます。多くの世代の方々と関わることで、社会性やコミュニケーション力が身に付き、これからも「人前で話す力」「仲間と協働する力」「社会問題に対して気づく力」等を引き続き出し、活動を継続していきたいと考えている。



AEDシート配布活動



AEDシートと製作班メンバー



障がい者アートフェスボランティア



ジオパーク海洋ゴミ調査
ボランティア



社会人野球応援ボランティア



田辺警察から感謝状授与

第16回 SYDボランティア奨励賞 実施要項

公益財団法人修養団では、昭和57年より平成13年まで「蓮沼門三社会教育奨励賞」により多くの優れた社会教育活動を実践した個人、グループ・団体を顕彰して参りました。この実績を踏まえ、平成18年に創立100周年を記念し、新たに「愛と汗の精神」を信条とする《幸せの種まき運動》の実践者を顕彰する「SYDボランティア奨励賞」を設立しました。

主 催：SYD（公益財団法人修養団）

後 援：文部科学省

「広がれボランティアの輪」連絡会議

公益財団法人日本レクリエーション協会

公益社団法人日本キャンプ協会

1. 趣 旨

今日、次代を担う青少年の健全育成はますます重要な課題となっている。そこで、ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげたグループや個人を顕彰することにより、青少年のボランティア活動を促進するとともに、活動の習慣化を図り、生きる力や豊かな心を育むなど青少年の健全育成に寄与する。

2. 対 象

原則として、ボランティア活動を実践している学校（生徒会、クラス、クラブ等）やPTA、子ども会等のグループ及び個人

3. 選考基準

次の項目に該当し、高い評価を得られたもの

- (1) ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげ、今後の活動に期待のできるもの
- (2) ボランティア活動に創意工夫や新しい方策を取り入れ、新機軸を拓き、今後の活動に期待のできるもの
- (3) ボランティア活動を受け入れ、施設の利用、改善、充実に努め、活動の活性化に寄与している施設またはそれを推進する活動
- (4) 青少年の健全育成を目的としたボランティア活動を実践し、将来が期待されるグループ及び個人

4. 選考方法

学識経験者等7名に選考委員を委嘱し、選考委員会にて決定する。

5. 表 彰

文部科学大臣賞 1点

クリスタルトロフィー（表彰状）、副賞（活動奨励金20万円またはSYD「青年ボランティア・アクション in フィリピン」へ1名招待）

優 秀 賞 3点

クリスタルトロフィー（表彰状）、副賞（活動奨励金10万円）

特 別 賞 2点

クリスタルトロフィー（表彰状）、記念品



6. 贈呈式

新型コロナウイルスの感染拡大により、動画贈呈式とし、SYDのホームページ等で公開する。

7. 募集方法

都道府県教育委員会、社会教育団体、青少年団体、学識経験者およびSYD組織、関係者に推薦を依頼するとともに、新聞、雑誌等のマスコミに広報を依頼する。

8. 応募方法

所定の様式に必要事項を記入し、活動報告書の上に添付して下記まで送付する。

9. 締め切り

令和3年11月30日

10. 申込み・問合せ先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-2 SYDボランティア奨励賞 係

TEL：03-3405-5441 FAX：03-3405-5424

E-mail：info@syd.or.jp <https://syd.or.jp/>

選 考 委 員		(順不同・敬称略)
明石	要一	(千葉大学名誉教授、千葉敬愛短期大学学長)
鈴木	優子	(前[学]立教女子学院理事・法人事務局長)
長沼	豊	(学習院大学教授)
松澤	宏尚	(全日本中学校長会事務局長)
山田	一功	([社]ひかりの里理事長、[公]日本PTA全国協議会元副会長)
御手洗	康	([公]修養団理事長)
山崎	一紀	([公]修養団主幹)

過去受賞者一覧

(敬称略・順不同)

第1回(平成18年度)

文部科学大臣賞 京都市立京都御池中学校(京都府)
優秀賞 【小学生の部】鏡石町立第一小学校(福島県)
 *【高校生の部】該当なし 【中学生の部】庄原市立東城中学校(広島県)
 【大学・一般の部】合同ボランティアネットワーク(神奈川県)
特別賞 ◆国崎翠・吉居夏奈(北海道) ◆美幌町青少年育成協議会(北海道) ◆喜多方市山都第一小学校(福島県) ◆熱海市立小嵐中学校(静岡県) ◆加藤ひとみ(岐阜県) ◆伊江村立伊江中学校(沖縄県)

第2回(平成19年度)

文部科学大臣賞 香川県立多度津水産高等学校(香川県)
優秀賞 【中学生の部】木更津市立鎌足中学校(千葉県)
 *【小学生、一般の部】該当なし 【高校生の部】学校法人高倉学園豊橋中央高等学校(愛知県)
特別賞 ◆天草市立城河原小学校(熊本県) ◆志布志市立通山小学校(鹿児島県) ◆東横学園中学・高等学校 中学2年(東京都) ◆多治見市立多治見中学校(岐阜県) ◆神奈川県立相原高等学校「相っこプロジェクト」(神奈川県) ◆熊本県立盲学校(熊本県) ◆立命館大学国際部国際協力学生実行委員会(京都府) ◆ブラジルを美しくする会(ブラジル)

第3回(平成20年度)

文部科学大臣賞 学校法人篠ノ井学園 長野俊英高等学校 郷土研究班(長野県)
優秀賞 【中学生の部】新宮町立新宮中学校相島分校 相島少年消防クラブ(福岡県)
 *【小学生の部】該当なし 【中学生の部】2008年度屋久島町立小瀬田中学校2年生「笑顔」プロジェクト(鹿児島県)
 【高校生の部】更級農業高等学校 農業クラブ 農業応援団「ねこの手隊」(長野県)
 【大学・一般の部】八雲ジュニアサポーターズクラブ(島根県)
特別賞 ◆尾道市立三幸小学校(島根県) ◆鳴門市第一中学校 ボランティア部(徳島県) ◆富山県立小杉高等学校 生徒会(富山県) ◆富貴中おやじの会(愛知県) ◆高知朝倉里山を造る会(高知県)

第4回(平成21年度)

文部科学大臣賞 豊田市立崇化館中学校 麦の会(愛知県)
優秀賞 【小学生の部】日吉子どもサミット(滋賀県)
 *【一般の部】該当なし 【中学生の部】名古屋市立はとり中学校(愛知県)
 【高校生の部】中央学院高等学校 生物部(千葉県)
特別賞 ◆S Y D北海道クラブ(北海道) ◆横浜市立岡村中学校(神奈川県) ◆長野県飯田風越高等学校国際教養科3年(長野県) ◆みんなでつくる学校 とれぶりんか(大阪府) ◆広島文化学園短期大学 食物栄養学科(広島県)

第5回(平成22年度)

文部科学大臣賞 高知大学 高知子ども守り隊 守るんジャー(高知県)
優秀賞 【小学生の部】御前崎市立御前崎小学校(静岡県)
 【中学生の部】京都市立嵯峨中学校(京都府)
 【高校生の部】江楠学園 北陵高等学校 生徒会(佐賀県)
 【大学・一般の部】東海大学海洋学部環境サークル E.C.O(静岡県)
特別賞 ◆清水町立清水中学校 劇団8・9組(静岡県) ◆宮城県立塩釜高等学校地活生化班 塩釜ぼんぼん(宮城県) ◆愛知県立日進高等学校(愛知県) ◆京都精華大学 ホスピタルアートボランティアグループ(京都府)

第6回(平成23年度)

文部科学大臣賞	善通寺市立東中学校 ボランティア部 (香川県)
優 秀 賞	【小学生の部】御蔵島村立御蔵島小中学校 黒潮会 (東京都) 【中学生の部】港区立青山中学校 お話会 (東京都) 【高校生の部】岡山県立久世高等学校 家庭クラブ (岡山県) 【大学・一般の部】西部点字パソコンサークル・ステップ(静岡県)
特 別 賞	◆大和市立渋谷中学校 (神奈川県) ◆新潟県立柏崎工業高等学校 防災エンジニアコース 3 年生、2 年生 (新潟県) ◆栃木県立栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班 (栃木県) ◆出雲西高等学校 インターアクトクラブ (島根県) ◆播磨マリンクルー (兵庫県)

第7回(平成24年度)

文部科学大臣賞	埼玉県立桶川西高等学校 科学部 (埼玉県)
優 秀 賞	【小・中学生の部】藤岡市立東中学校 生徒会 (群馬県) 【高校生の部】盈進中学高等学校 ヒューマンライツ部 (広島県) 【大学・一般の部】旭川医科大学 育児院学習サポート(北海道)
特 別 賞	◆喜多方市立第三小学校 (福島県) ◆ ^{ボランティアサークル} V・C・イヤリング (愛知県) ◆東京 都立大島海洋国際高等学校 ボランティア部 (東京都) ◆ ^{あじしま} 網地島 ^{がっこう} ふるさと楽好 (宮城県)

第8回(平成25年度)

文部科学大臣賞	鳥取大学 障害児教育研究会 (鳥取県)
理事長特別賞	石巻市立牡鹿中学校「笑顔創造プロジェクト」(宮城県)
優 秀 賞	【小・中学生の部】宇都宮市立泉が丘中学校 (栃木県) 【高校生の部】京都府立宮津高等学校 建築科 (京都府)
*【大学・一般の部】該当なし	◆北海道小樽工業高等学校ボランティア同好会 (北海道) ◆福島県立平工業高 等学校 生徒会 (福島県) ◆身延山高等学校 手話コミュニケーション部 (山 梨県)
特 別 賞	

第9回(平成26年度)

文部科学大臣賞	いなべ市立大安中学校テクニカルボランティア部 (三重県)
理事長特別賞	東洋大学学生ボランティアセンター (東京都)
優 秀 賞	【小・中学生の部】塩尻市立檜川中学校雪かきボランティア (長野県) 【高校生の部】岩手県立久慈工業高等学校 (岩手県)
*【大学・一般の部】該当なし	◆青森県立名久井農業高等学校 TEAM FLORA PHOTONICS (青森県) ◆末吉 っ子支え隊 (愛知県)
特 別 賞	

第10回(平成27年度)

文部科学大臣賞	熊本市立天明中学校 生徒会 (熊本県)
理事長特別賞	千葉黎明高等学校 (千葉県)
優 秀 賞	【小・中学生の部】沼津市立片浜中学校 生徒会 (静岡県) 【高校生の部】山口県立柳井商工高等学校まちづくりプロジェクトチーム(山口県) 【大学・一般の部】西九州大学 ESRDサークル (佐賀県)
特 別 賞	◆渋川市立渋川南小学校 (群馬県) ◆北海道函館水産高等学校 北のくにつく り 2015 (北海道) ◆高知県立中村高等学校西土佐分校 地域ボランティア隊 R a p p o r t (高知県) ◆国際基督教大学 劇団虹 (東京都) ◆摂南大学 ボラ ンティア・スタッフズ (大阪府)

第11回(平成28年度)

文部科学大臣賞 豊後高田市立戴星学園 (大分県)

理 事 長 賞 神奈川県立吉田島高等学校 草花部 (神奈川県)

優 秀 賞 【小・中学生の部】唐津市立浜玉中学校 (佐賀県)

*【大学・一般の部】該当なし 【高 校 生 の 部】大森学園高等学校 おもちゃの病院 (東京都)

特 別 賞 ◆長野県下高井農林高等学校 園芸福祉クラブ (長野県) ◆九中校区すこ

やかネット (大阪府)

第12回(平成29年度)

文部科学大臣賞 兵庫県立舞子高等学校 天文気象部 (兵庫県)

優 秀 賞 【小・中学生の部】名古屋市立北山中学校 ボランティア部 (愛知県)

*【大学・一般の部】該当なし 【高 校 生 の 部】東京都立大島高等学校 カメリアユナイテッド (東京都)

特 別 賞 ◆広島県立広高等学校 書道部 (広島県)

第13回(平成30年度)

文部科学大臣賞 多摩市立東落合小学校 ゴミ出しボランティア (東京都)

優 秀 賞 【小・中学生の部】北九州市立霧丘中学校 特別支援学級「econnect project」(福岡県)

【高 校 生 の 部】宮城県名取北高等学校 奉仕活動部 (宮城県)

【大 学 生 の 部】BLUE WALK (愛知県)

特 別 賞 ◆名古屋市立工芸高等学校 WEB 部 (愛知県) ◆名城大学 ボランティア協議会 (愛知県)

第14回(令和元年度)

文部科学大臣賞 島根県立大学 献血サークル あかえんぴつくん (島根県)

優 秀 賞 【小・中学生の部】稲城二中シンガーズ (東京都)

*【大学・一般の部】該当なし 【高 校 生 の 部】名古屋市立工芸高等学校 防災チーム (愛知県)

特 別 賞 ◆復興支援東北の物産販売 高校生プロジェクト in 岩見沢 (北海道) ◆宮城県農業高等学校 次世代の被災地語り部ボランティア (宮城県)

第15回(令和2年度)

文部科学大臣賞 北九州市立大学 地域共生教育センター 子ども食堂応援プロジェクト (福岡県)

優 秀 賞 【小・中学生の部】刈谷市立雁が音中学校 (愛知県)

【高 校 生 の 部】青森県立名久井農業高等学校 5代目 TEAM PINE (青森県)

【大 学 生 の 部】ベイラー大学 ベイラー・イン・ジャパン (アメリカ)

特 別 賞 ◆名寄市立名寄東中学校 ボランティア部 (北海道) ◆福島県立平工業高等学校 生徒会 (福島県)



SYD『幸せの種まき運動』

—みんなでまこう！幸せの種—をスローガンとして、まわりの人々に、社会に、一粒でも多くの‘幸せの種’をまいていこうという運動です。

さりげなく、よろこんで、出来るだけ‘幸せの種’をまいていきましょう。

種をまくときは、あなたの“笑顔”という栄養分を添えて！

《三つの‘幸せの種’》

☆こんにちは！という

‘ふれあいの種’

☆どうぞ！という

‘思いやりの種’

☆ありがとう！という

‘よろこびの種’